

件名	令和 6年度 第 1 回 福井市障がい者自立支援協議会 居宅生活支援部会 報告書		
日時	令和 6年 5月 10 日(金)10:00～ 11 :15	会場	福井市市役所6会議室
出席者	資料1参照(敬称略)※修正:福井県精神保健福祉士協会会員→理事 橋本氏 福井県社会福祉士会会長→監事 竹澤氏		
欠席者	竹澤氏・大角氏・坪田氏		
報告事項	1. 報告事項 昨年度の取組内容について 資料2 (1)障がい者の地域理解促進について (2)障がい福祉人材不足について		
協議事項	2. 協議事項 今年度の取り組み内容(案)について 資料2 (1)障がい者地域理解促進について (2)障がい福祉人材不足について		
	4. 今年度の開催スケジュール(予定)について。		
	会議名	日時	場所
	第 1 回部会	令和 6 年 5 月 10 日(金)10:00～	福井市役所第 6 会議室
	第 2 回部会	令和 6 年 8 月 8 日(木)10:00～	未定
	第 3 回部会	令和 6 年 11 月 14 日(木)10:00～	未定
	第 4 回部会	令和 7 年 1 月 23 日(木)10:00～	未定
報告事項	昨年度の取組内容について (1)障がい者の地域理解促進について (資料2参照) (2)昨年度の取組内容及び今年度の活動方針について(資料2参照) 〔事務局・黒田氏〕 ・令和 6 年度については民協の定例会を始め、色々な団体に対しての研修を継続的に実施し、地域の理解促進を図っていく。障がい福祉人材不足については、理解促進以外のメンバーでワーキンググループを選定し、人材不足は人材の育成か、確保が必要なのか、イベントの開催などを含めて整理をして協議する。		
課題提起	〔北山委員〕 ・昨年度は基幹相談主催のアンケートでは課題が抽出出来なかった。今配布された資料は正式な書類ではないが、第 7 期障がい者福祉計画と障がい児福祉計画の中の課題として提起したい。 計画では、居宅生活支援部会でも協議すると明記されているが、議論にはなっていない。地域生活支援拠点事業が別立てで、居宅では何の役に立っているのかわかっていない。 地域生活支援拠点事業の主な目的は、親がいなくなった後を見据えて、地域で生活できるように整えていく為の事業である。二本柱で目的に掲げられている事業に対して、目的を共有する居宅生活支援部会が何も議論しなくていいのかと思う。 〔訪問系のサービス事業所の側面から感じる地域生活課題課題〕		

意見等

・病院が家事援助のサービスを使わないと病院から出せないなど、支援者のニーズとしての依頼がとても多いので、本人からのキャンセルが多いと感じている。共同実践の在り方も相談員によって判断の差があり、提供する担い手(事業所)が少なくなるのではないかと。

・移動支援については、事業所に通えるようになる目的もあっての利用ニーズだと、実態調査をどこがするのか。本来必要な人に必要な量を提供されるのがサービス支給なので、実態調査は必要なのではないか。障害福祉サービスと介護保険との併用は不可だと理解しているケアマネもいるので、介護保険との併用の理解については周知が必要だと思う。数年前、居宅生活支援部会で強度行動障害者の生活を考えていかなければいけないと取り組んで、それが自立支援協議会の方に流れていった。変化があったのか、今もこういう取り組みをやっているとかが、伝わってこない。

[吉村部会長]

・北山氏の意見としては、居宅生活支援部会で何を考えてやっていくのかの一つの意見だと思う。他に考えている方の意見がほしい。第7期障がい福祉計画は、部会の方には渡してもらえるのか。

[障がい福祉課]

・障がい福祉計画の冊子は、ほぼ出来上がっている。部数的に配れる分を確認したい。ホームページ上にはアップされている。情報提供という意味で至らない部分があるなら、改めてホームページに載せている事を皆さんに伝えたい。

[橋本委員]

・サービス事業所に従事している1人1人のヘルパーや訪問看護の看護師も、自宅に行って地域の課題をそれぞれ感じている。そこを拾い上げる事が必要。拾い上げないまま、人材を確保しよう、育成をしようと言っても、現場とピントがずれてくる。例えばこのサービス事業所が感じる地域の課題を抽出して検討していくのもいいと思う。そこが急がば回れではなく、人材を増やそう、育てようではなく、それぞれのサービス事業所から見える課題を拾ってくるのもいいと思う。訪問看護は退院の条件として出されるので、そこからキャンセルになる。

[吉村部会長]

・運営会議では、強度行動障害の生活の取り組みは関わった方から、なぜ進んでいかないのかという意見がある。地域生活拠点事業で研修をやるという項目があるが、去年は開催されてない。子供から大人になっていくその過程においても、強度行動障害者はいろんな形でサービスに関わっていくので、居宅生活支援部会から自立支援協議会全体でやっていこうということになった。こども部会からは、何か居宅生活支援部会も関わっていくべきではないかと言われている。

地域生活拠点事業について皆さんは理解しているか。

[稲木委員]

・計画に明記されている以上は、取り組む必要があるのかなと思うが、当事者の人を受け入れる施設としては、生活介護と移動支援では異なるが、家族の思いが強いこともあるので、本人の思いを

どのようにできるのかはある。

〔石森委員〕

・強度行動障害の子どもが、他の放デイに通われていたのを断られたケースを受け入れている。親が仕事に行けない状況がある。両親が仕事に行ける環境を作ってあげることが大事だと思っている。

〔丸山委員〕

・話がずれるが、事業者でも不足していることだが、私の立場からすると、地域に住んでいる障がいの方の住居の近くで、支える人は誰かと思うと、民生委員もそうだが、福祉委員・自治会長とか近隣住民の方に関心を持ってもらう事となると、そのような研修も入って来ると思う。

〔吉村部会長〕

・地域には福祉委員がいると聞いて、周囲で暮らす人たちに理解を高めていくことは今年の柱である。北山氏が研修として作成した資料に、橋本氏の得意分野をはめ込むとか、ワーキングチームで検討をお願いしたい。

〔長谷川委員〕

・個人で学べる場もあるが、皆さんが専門でやっている中での情報を共有しながら、1つ1つできる所を共有して次に動けるような学習の場があるといい。それぞれの事業所が抱えている課題の部分はまとめられるといいと感じる。集まる場がないのかとも思うと、個別で拾い上げていくしかないかと。

〔北山委員〕

・基幹と話していたのは、ヘルパー事業所の横の繋がりは全くない。他の入所・GH・就労関係などは横のつながりがある。この資料を作成するにあたり、他の県外内市町の自立支援協議会はどうかを見てみた。滋賀県の大津市等は部会の数が細かい。当事者だけの部会やヘルパーや放デイ等の事業所ごとの部会がある。

〔北川委員〕

・病院のソーシャルワーカーとして参加していると、当事者の在宅生活に深く関わっている立場とは、1歩離れた立場にはなっている。病院なので高齢者分野等の幅広い中で、高齢者支援体制が進んでいると実感している。高齢者分野だと、各包括エリアの地図の中に特養・サ高住等がマップになって、どんな事業所か、連絡先も含め情報としてデータ化されているので、提案するときは活用している。障がい関係事業所がどこにあるか等のマップがあれば、教えてもらいたい。なければ作っていきたりすると、当事者一人ひとりに平等に情報が得られるのではないかと思う。

〔事務局・黒田氏〕

・ワーキンググループについてまで踏み込んだ議論になっていると感じる。時間的な制約もあるので、皆さんの情報を簡単に整理して、言語化して共有してもよろしいか。皆さんの方から出ている意見、北山氏から提示された資料を照らし合わせて話をしたい。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北山氏の資料の地域の生活課題の中で、特に精神・発達障害の方の家事支援、移動支援とかは、サービス事業所から見える課題で、ニーズが多いとなっている。ニーズに基づいた支援が出来るかと言う所が疑問⇒サービス事業者から見える課題をあげて整理するのはどうか。</li> <li>・相談員・就労・GH は横のつながりはあるが、ヘルパー事業所はないので横のつながりを作ったり、事業者から見える課題を拾い上げる。その上でなおかつ、障害福祉計画や居宅生活支援部会で協議すると明記されてることに基づいて、課題等を今後協議していく形の方がいいのではないか。地域生活支援拠点事業の連携については、地域生活の意向も進まない理由とか課題について協議するといいのではないか。この部分が、ワーキンググループの人材不足というところだと、北山氏が序盤のところでも話した。ニーズに基づいたそのサービス提供ができていないと、そもそも サービス事業者もそれに基づいて人員の確保とか、応援してこうという体制にならないという話だったと思うがいかがか。</li> <li>・協議事項の 2 の中のワーキンググループについてだが、障害福祉計画に基づいて、居宅生活支援部会で地域生活の移行が一つもない理由や、課題についての協議。地域生活支援拠点での親亡き後の暮らしとか、体験の場とか、きちっと相談する場とか、そういったところをちゃんと利用者のニーズに基づいて、拾い上げて整理した方がいいんじゃないかという意見だったと思う。まとめると、ワーキンググループで協議をするのなら、サービス事業所から見える課題を拾い上げたり、横の繋がりがある事業者から情報を取りまとめたりのところを協議するという事でよろしいか。</li> </ul>
採 決	〔吉村部会長〕
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒田氏が意見をまとめた方法に今年度舵を切るのであれば、前回のワーキングチームに入っていない方は福祉サービス事業所の方が多い。このメンバーで課題的なものを抽出するか、もう一度地域で暮らすための課題を抽出するというようなワーキングチームに、切り替えてもよろしいか。</li> </ul>
協議内容 (1) 説 明	<p>皆さん頷きがある→了承確認</p> <p>整理をすると言う形でチームを立ち上げる。人材育成と言うのをしばらく待って、舵をきりたいと思う。</p> <p>〔黒田事務局〕</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキングチームの進め方という部分で坪田氏から説明の予定だったが、不参加なので代理で説明をする。</li> </ul> <p>具体的に何からやろうかというところを協議するのがまず第 1 回目のワーキングという認識で見えて頂く。具体的に言うと、先ほど最初に橋本氏が話したが、サービス事業所から見える課題を拾い上げていく。では拾い上げていくためにはアンケートを取った方がいいのではないかとか、今の時点で、北山氏が話したように、見えている課題をまずきちんと整理して、それに向けて何をやっていくといいかという、部会としての方針をある程度大枠を固めていただきたい。</p> <p>第 2 回居宅生活支援部会は 8 月 8 日に予定されているが、この第 2 回目以降の部会で、そのワ</p>

	<p>ーキングチームのメンバーで出た方針の大枠を共有しつつ、じゃあ具体的に今後その意見に基づいて何をやっていこうかというところを、最終的に掘り下げていく感じになる。</p> <p>今のグループの方で継続してやるのか、ワーキングメンバーを選任し直すとか。具体的な取り組みを明確にしていけるようなイメージでいけるといいのでは。まず、より具体化してどういう風に何を勧めていくかというところを協議する場だと思って欲しい。</p>
意見等	<p>〔北山氏〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域促進が置き去りになっているが、引き続きやっていくということなので、発信は必要なのでどう発信するのかを頭の中で考えていた。もう少し計画を見る。</li> </ul>
WG 確認	<p>〔部会長〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域理解促進については引き続きやる。ではどうやってやるかという話には至らなかった。ワーキングもあるので、取り組みというか、地道に何か所もやっていくことはしていきたい。</li> </ul>
提案要請	<p>◎障がい者の地域理解促進についての研修に向けた WG メンバー 出店氏・山越氏・丸山氏・長谷川氏・竹澤氏・北山氏・</p> <p>◎障がい福祉人材不足についての WG メンバー 橋本氏・北川氏・石森氏・稲木氏・中村氏・大角氏</p>
意見等	<p>〔吉村部会長〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に当事者団体の出店氏、山越氏に何かご意見をお願いしたい。</li> </ul> <p>〔出店委員〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨日電話で相談があった。精神疾患だということは十分わかっているけれども、病院にかかることを本人が拒否するために、どこの病院にもかかってないケース。暴言や問題を起こしてどこの病院も事業所も関わる事がない人が存在する。分からない所で存在するということは難しい問題だと思う。</li> </ul> <p>〔吉村部会長〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が受けられてないっていう方は、精神の方だけではなく、知的の方もいる。引きこもりは大きな課題になっていると聞いている。</li> </ul> <p>〔山越委員〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談があると行くが、その人たちが求めている事に対して私たちは解決する事は難しいが、繋ぐと言うのが私らの仕事。相談の中では、年を取ると誰も相手にしてくれないとかある。また、近くの民生委員に話をしたことがあるかと聞くと、以前は連絡したことがあると言うので、こちらから民生委員の方に連絡したりする等している。しかし、この部会に参加して、みなさんは色々な立場でやっているんで、自分の視野が狭い事も分かった。</li> </ul> <p>〔吉村部会長〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繋ぐという事は大事なことなので、また繋ぐについても話し合いたいと思う。</li> </ul>

次回	令和 6年 8月 8日( 木 ) 10 : 00 ~
----	----------------------------

(場所) 未定
---------